

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバ出現はこれから

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ)

ラーバは見られていません。(図2)。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは10月12日に野辺地沖で、10月20日に奥内沖で0.8個体/m³、10月13日に久栗坂沖で0.6個体/m³見られました(図3)。

(3) サンカクフジツボ

ラーバは10月14日に奥内沖で、10月19日に野辺地沖で0.8個体/m³、10月13日に久栗坂沖で0.6個体/m³見られました(図4)。

(4) その他

アミクサの小枝は10月12日に野辺地沖で3.1個/m³見られました。キヌマトイガイ、オベリア類のラーバやクラゲは見られていません。

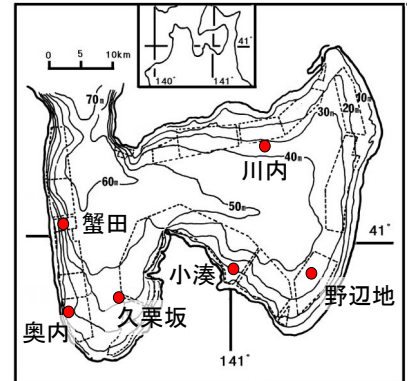


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	単位: 個体/m ³	
							オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
奥内沖	R2.10.14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
	R2.10.20	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	R2.10.13	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0
	R2.10.20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	R2.10.12	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	3.1
	R2.10.19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
川内沖	R2.10.20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温が20℃以下に低下すると産卵します。現在、陸奥湾内の中層の水温は19℃前後になったので、**これからラーバの出現と付着が増加**していくものと思われます。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着**することが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイラーバは4~7月まで出現していたので、稚貝および耳吊り貝に小さい個体が多く見られる可能性があります。これまでの調査で**秋から冬生れのラーバの付着はほとんどない**ことが分かっています。

サンカクフジツボの付着直前のラーバが少し見られますが、付着のピークは過ぎています。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

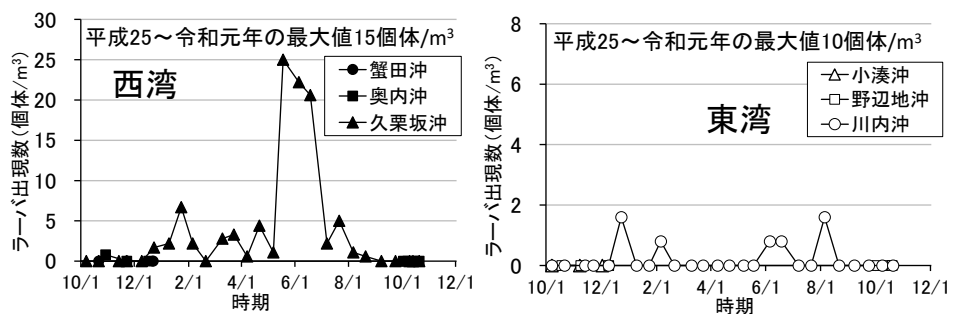


図2 ヲウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和元年10月~令和2年10月)

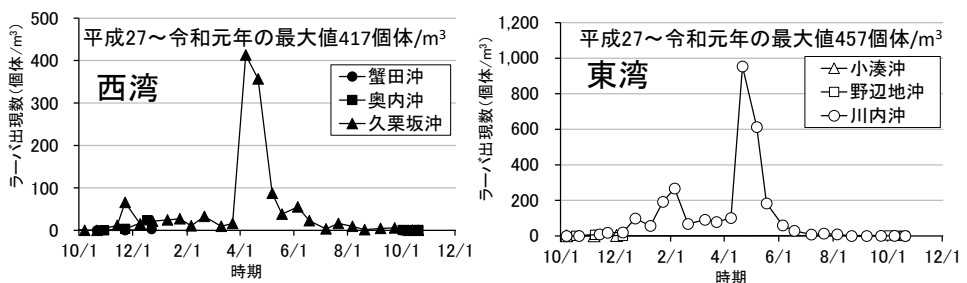


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移 (令和元年10月~令和2年10月)

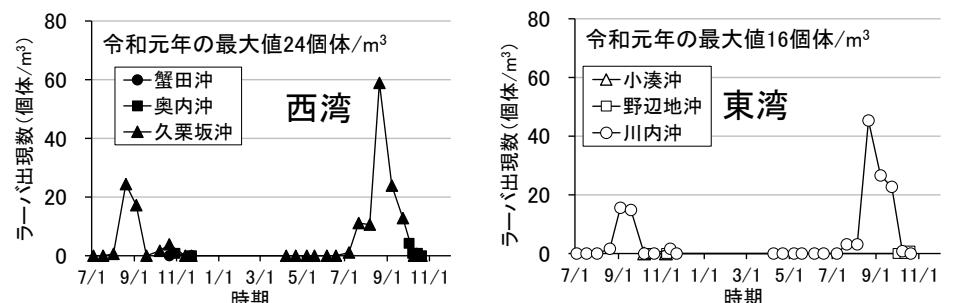


図4 サカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和元年7月~令和2年10月)

